

## 【重点審議事項の論点整理について（政策・土木交通常任委員会）】

### （論点整理を行った重点審議事項）

新生美術館基本構想（平成24年度に策定・変更予定の計画等）

### （整理された論点）

新生美術館基本計画の策定

### （論点について出された意見（主なものを抜粋））

計画全体について

- ・アール・ブリュットが美の滋賀の入り口になり得るのかについて、もう少し検討する必要があるのではないか。
- ・県内で地道に活動している芸術家やアマチュアの方々が、自由に発表したり、披露できる場も必要ではないか。
- ・多額の経費をつぎ込んで新生美術館を整備するのであれば、税金の使い方について、大半の県民から理解を得られるような美術館を作り上げる必要があると思うので、その部分については、拙速でなくもっと議論を深めて、本当にいいものになるように議論する必要があるのではないか。
- ・予算面の制約によって、新生美術館が本来目指すべき姿が実現できず、検討委員会における今までの議論が無駄になる可能性もあり得る。また、非常に厳しい県の財政状況を鑑みて、あまり性急になりすぎず、もう少し慎重な議論をする必要がある。

施設整備等（経費面の問題も含む）について

- ・検討委員会で議論されているレイアウトが、予算の制約によって、どれだけ生かされるのかという問題もあるので、予算面も含めた全体像を踏まえた上での議論が必要である。
- ・県政全般的に財政事情が非常に厳しい状況にあることや喫緊の課題の防災の部分の対策などが遅れていることを鑑みて、県政全般として、そうしたことにも十分に配慮した上で検討する必要がある。また、平和祈念館は、既存の施設を使ったわけだから、そういう思いで新生美術館についても経費面で削れるところは削る必要があるのではないか。

交通アクセスについて

- ・駅から美術館までの町並みについて、美術館があることをにおわすようなものも、全体的な部分として必要だと思う。特に、アクセスを強化しないと、バスの本数を増やすだけでは、うまくいかないと思うので、そこについては、交通体制の整備といったことも踏まえて、きちっと議論する必要がある。

その他（今後の進め方等）

- ・施設整備に多額の経費を要することから、市町村合併に伴い空きスペースとなった公共施設等にアール・ブリュットの作品を展示するなどの手法についても検討すべきではないか。
- ・本来のアール・ブリュットの趣旨から言うと、もっと裾野を広げていく必要があると思うので、そういう意味で、人づくりに力を入れるべきである。
- ・分館の設置場所を検討するに当たって、交通アクセスの利便性という視点などから、県庁周辺の県有地の利活用や、大津駅前地域への立地などについても検討すべきではないか。